

東海道中膝栗毛

田岡典夫



歴史と文学の旅

● 平凡社

東海道中膝栗毛

田岡典夫



歴史と文学の旅 東海道中膝栗毛

昭和48年 4 月26日 初版第 1 刷発行

定 価 750円

著 者 田岡典夫

発行者 下中邦彦

発行所 株式会社 平凡社

東京都千代田区四番町 4 番地 1

郵便番号 102 振替 東京 29639

電話東京 (03)-265-0451

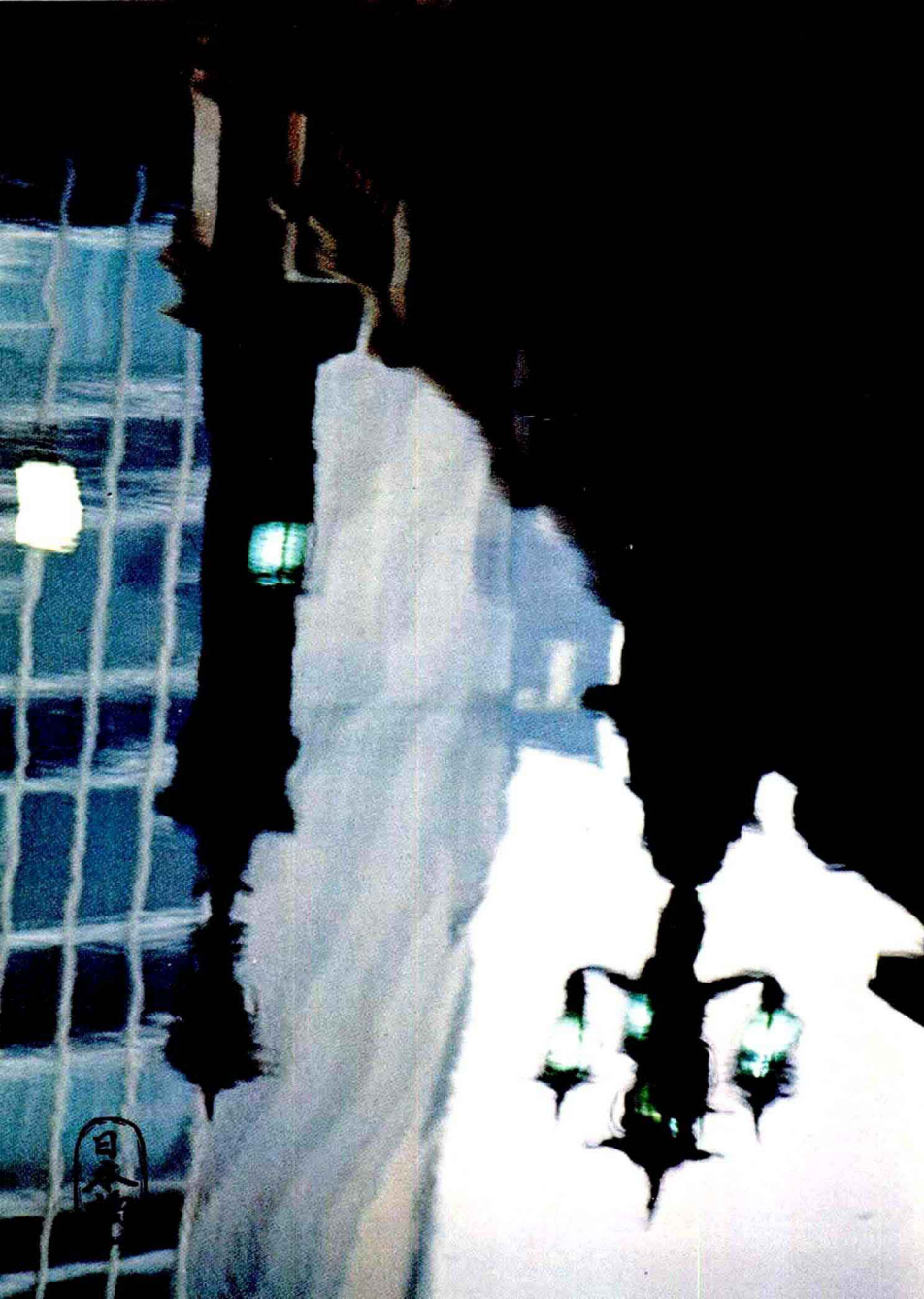
印 刷 株式会社東京印書館

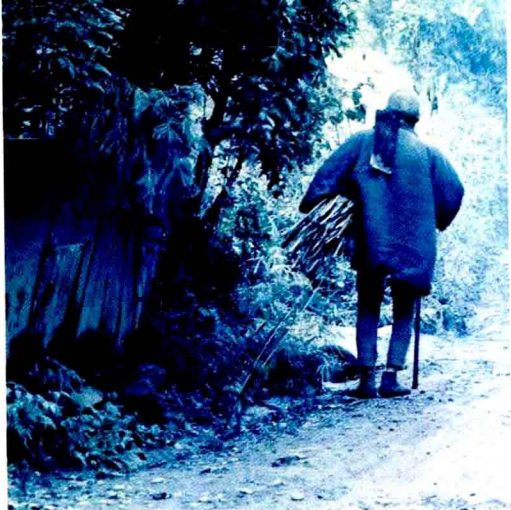
フォト・タイプ株式会社

製 本 和田製本工業株式会社

© 田岡典夫 1973

0326-438080-7600





権太坂の保土ヶ谷、遊行寺の藤沢にはいまでも古い面影が残る 六郷川を渡ると厄除川崎大師がある
 ◀東海道中随一の難所、名にしおう天下の嶮の箱根山。峻嶮で知られた関所附近には、杉並木が続く
 須雲川、畑茶屋を経て元箱根まで、苔むした旧道が復元され、昔の羊腸の道をたどることができる





有松

小豆

大蔵

平塚

蘇峰

戸塚

保土谷

神奈川

川崎

品川



學 府中 江 興洋 由井 蒲原 吉原 原 沼津 三島



そのかぐわしきで有名な金木屋のある三島大社

せきべや吉五郎の名物安部川もち▶

御存じ、丸子のとろろ汁の丁字屋

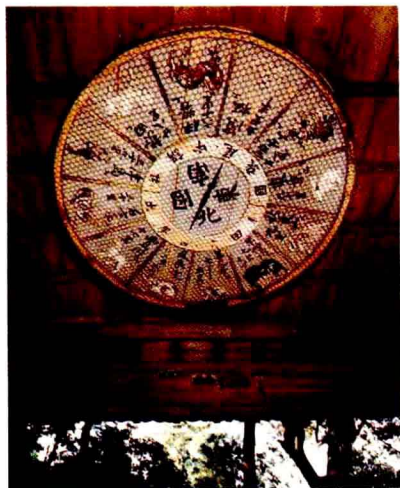


沼津の千本松原。黒松の高い梢に、駿河湾の潮風が鳴り渡る





袋井 → 掛川 → 日坂 → 金谷 → 島田 → 藤枝 → 岡部



家康が寺号と大名待遇を与えた、袋井の可睡斎 旅人泣かせの黙阿弥の「薫紅葉宇都谷峠」の舞台
越すに越されぬ「大井川」。舟も橋も無く、一度、大雨で川留になると、島田、金谷の宿に人があふれた
駿河、遠江は道の両側に広がる茶畑が、のどかな旅の気分を満喫させてくれる。牧の原茶園が有名





此为试读, 需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com



▲浜名湖西側にある「新居の関所」日本に残存する唯一の建物

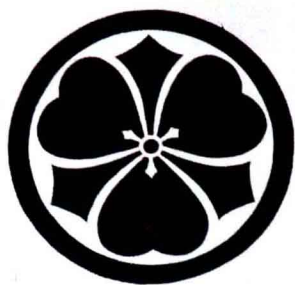
浜名湖の落日「遠州浜松狭いよって広い……」と詠われた城下町



白須賀の手前の汐見坂。広重の五十三次の画のごとく、白砂青松の海岸の向うに、遠州灘が見える

◀三河の国に入ると、二川から鳴海まで、江戸の街道筋を歩いているような気がする。写真は御油の宿
弥次さんも道中買い求めた、有松名物の絞り染め 猫も欠伸をしそうな、昼下りの二川の本陣跡





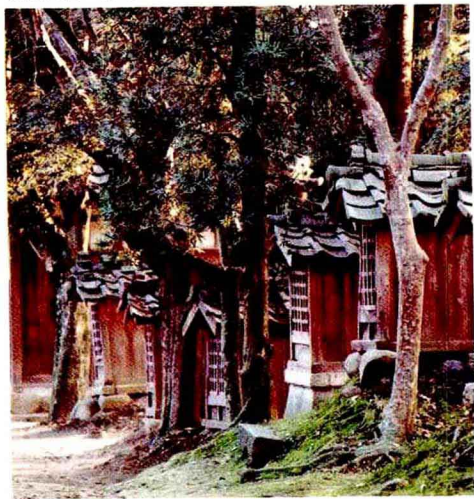
白鷺 二河 吉田 御油 赤坂 藤川 岡崎 池田 島海

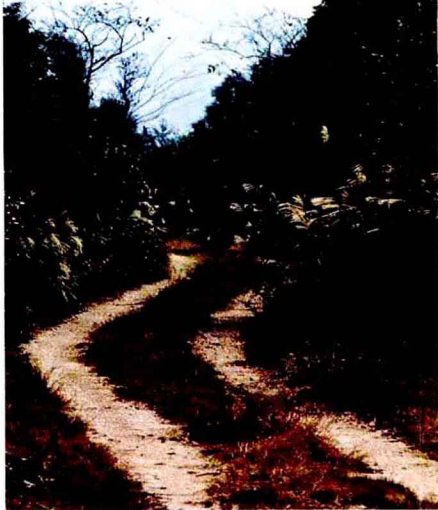


關 龜山 主野 石樂路 山口市 桑名 宮



松平六万石の城下町亀山。広重の「雪晴」の名画のごとく、いまも多聞櫓が、秀麗な姿をみせている
 熱田の船着場跡。ここから桑名まで海上七里の渡しになる。半日の船旅は、辛くも楽しくもあった▶
 交通の要衝、関の宿場に立つ、道しるべ 弘法大師が彫ったという石仏薬師如来を祀る石薬師寺





土山の農婦。この辺り、奥深い山里の景色だ。かの馬士歌のように、天候がよく急変する鈴鹿峠
 ◀中仙道との合流点、草津から陸路を行けば、写真の瀬田の唐橋、石山寺など名所を楽しみ大津に着く
 義仲、芭蕉ゆかりの寺、義仲寺のある膳所の町並み。べにがら格子が、はや京に入るおもいである

